

口永良部島 2018 年噴出物(細粒物)の鉱物組成の経時変化  
(10月26日～11月8日噴出物)

口永良部島における本年10月23日以降の降灰試料(10月26日, 11月5日, 8日)に含まれる鉱物種を粉末 X 線回折(XRD)分析により確認したところ, 10月23日噴出物と同様に, 変質鉱物としては石膏の低いピークが確認されるのみである。構成粒子観察結果と合わせると, 10月23日以降の噴出物は火道浅部のマグマあるいはその固結部が破碎・放出されたものが主体であると考えられる。

口永良部島における2018年10月23日以降の噴出物(2018年10月23日[午前・午後], 11月5日[前田, 本村]と同月8日[田代西地震観測点, 民宿くちのえらぶ付近])の細粒成分について, XRD 分析を行った(試料調整および XRD 分析条件は第142回予知連報告と同様)

結果を図1に示す。2018年10月23日の口永良部島噴出物には, 2014年噴出物には含まれていた黄鉄鉱・ミョウバン石が認められなくなり, 石膏のみが確認されるようになった(第142回予知連報告)。今回測定した10月26日以降の噴出物においてもこの特徴は継続している。構成粒子観察結果と合わせると, 10月23日以降の噴出物は火道浅部のマグマあるいはその固結部が破碎・放出されたものが主体であると考えられる。

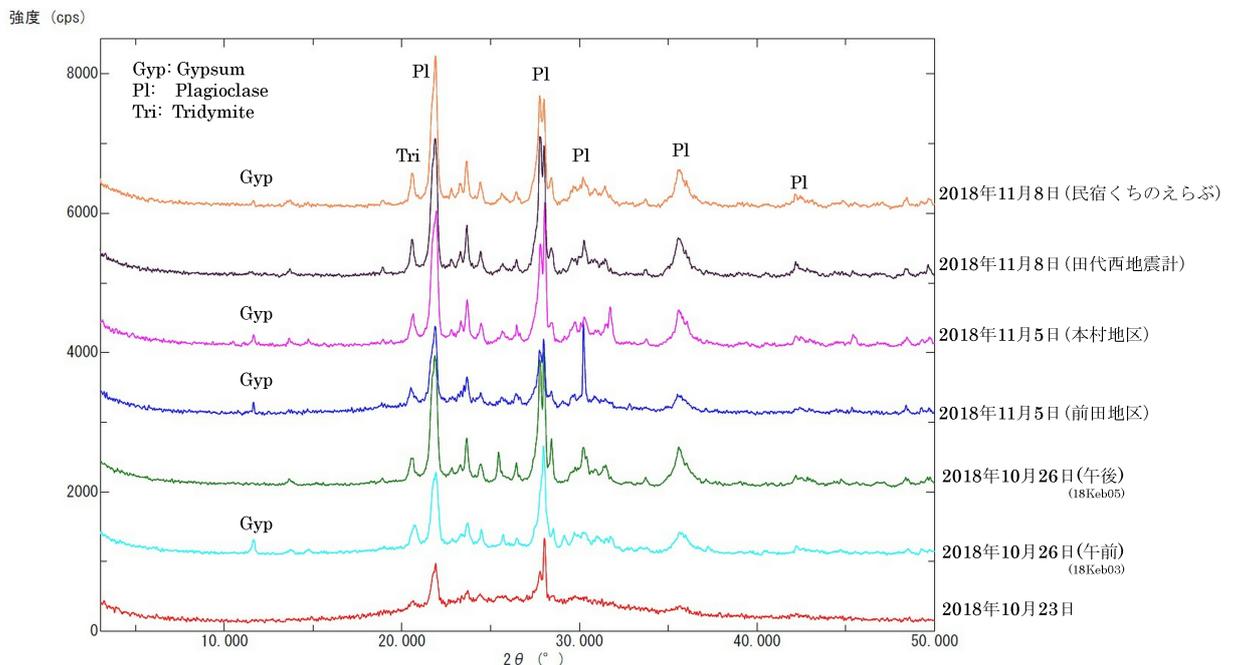


図1. 2018年10月26日以降の口永良部島噴出物の構成粒子のXRDチャート